

丹波大納言小豆の機械収穫・共同乾燥調製方式の確立

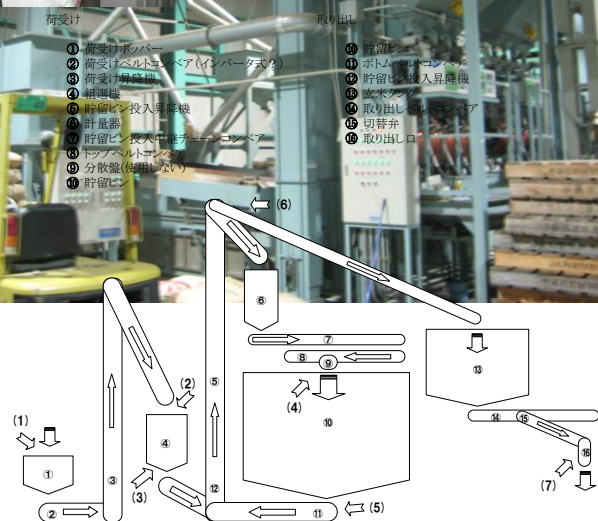
【背景・目的・成果】 丹波大納言小豆はブランド価値が高く、実需からの生産量確保の要望も強い品目ですが、手作業による現状の作業体系では、高齢化に伴う産地の縮小の恐れがあります。そこで、狭条無中耕無培土（不耕起）栽培、汎用コンバイン収穫、ならびに共同乾燥調製施設を組み合わせ、省力的な機械化栽培体系と乾燥調製工程の構築により、集落営農等の担い手による産地維持、生産量確保を支援する技術を確立しました。



汎用部分耕播種機を活用した狭条無中耕無培土（不耕起）栽培



無培土栽培により地面が平坦なので、コンバイン収穫が容易になります。



既存のライスセンター施設にコンバイン収穫した小豆を荷受けして、乾燥・調製時の損失率を調査し、改善点を指摘しました



選別・調製



袋詰、出荷

【技術の活用】

- ・集落営農や大規模農家による、生産量を確保するための省力栽培体系として、県下400haの小豆作付面積のうち、100ha以上の普及が見込まれます。
- ・JA丹波ひかみでは共同乾燥調製施設での対応が可能になりました。